

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加納高等学校 学校運営協議会（ゆめ会議かのう）（第3回）
- 2 開催日時 令和6年2月15日（木） 13：30～15：00
- 3 開催場所 加納高等学校 会議室
- 4 参加者 会長 高橋 利行 池田町教育長  
委員 小島 紀夫 （公財）岐阜県教育文化財団総合プロデューサー兼支配人  
藤田 洋子 PTA 副会長  
水野 律子 加納まちづくり会会長

学校側 高橋 宗彦 校長  
向田 富紀子 教頭  
衣斐 恵美子 事務部長  
藤田 英博 総務運営部長  
堤 寛司 総務運営部担当  
ゆめ加納プロジェクトの報告 教員2名

### 5 会議の概要（協議事項）

#### （1）学校視察訪問報告

東日本と西日本の2グループの学校視察の報告を行った。

意見1： 授業を補うための補習ではなく、学びたいという気持ちをもつ生徒に向けての前向きな補習があるとよいのではないか。授業の中で無理に収めようとする必要はないのではないか。

意見2： 美術科、音楽科との融合で魅力を作っていくべきでないか。

意見3： 課題に対する意識をもって視察をしており、課題に対する答えをしっかりと持ち帰ってきているのが素晴らしいと感じた。この姿をもっている教員の背中を生徒が学ぶことがキャリア教育に通じる。そのために、教員と生徒が安心して対話ができる場、そして距離を縮める場を設定する必要があるのではないか。（この場を使って、三学科が交流できればよいのではないか。）

意見5： 習熟度別授業をぜひやってもらいたい。一生懸命授業についていっている子どもをもつ親としては、習熟度別であつたら良かったと感じる。習熟度別にすることによって、教科に苦手意識をもつ子どもが少しでも先生に聞きやすい環境を作ってもらえたらうれしい。

意見6： 今の高校生は、上手にコミュニケーションをとることができる生徒が増えていと感じる。今回の報告を聞いて、このことは教員との関わりの中で変化してきているのだと感じた。

報告者感想1： 生徒との対話について、今年是对話の時間をうまくとることができなかったと感じるため、対話の重要性を再実感することのできる意見であった。

報告者感想2： 生徒が忙しそうだから先生に質問することができないと思っているのが、衝撃であった。生徒と向き合うことの大切さを感じた。

今後のゆめ加納プロジェクトの流れについての確認を行った。

意見1： 今いる生徒に向けての周知は、どのように考えているか。  
→今いる生徒にも周知をしようと考えている。

(2) 「服装規定」の見直しについて

意見1： 生徒が主体となって、考え要望し、それを学校側が受け止めて、保護者に伝えているという流れが素晴らしい。あるべき姿であると感じた。

意見2： 生徒会がしっかりしていて感心した。

意見3： 個人的にも賛成であるし、周りの保護者の方々も賛成であった。

(3) 令和5年度自己評価・学校関係者評価について

資料の説明を行った。

(4) グローカル探究授業成果発表会について

午前に行われた発表会の様子を紹介した。